

一般演題1-4

脳梗塞後の高次脳機能障害に対し、リハビリテーションと高気圧酸素療法 (HBO) を併用した一症例について

横田晃和<sup>1)</sup> 藤原賢次郎<sup>2)</sup> 石田 勝<sup>3)</sup>  
大森 繁<sup>4)</sup> 藤原恒弘<sup>1)</sup>

- 1) 社会医療法人 里仁会 興生総合病院 高気圧酸素治療部
- 2) 社会医療法人 里仁会 興生総合病院 脳神経外科医長
- 3) 社会医療法人 里仁会 興生総合病院 リハビリテーション科科长
- 4) 社会医療法人 里仁会 興生総合病院 高気圧酸素治療部技師長

最近われわれは、脳梗塞後の高次脳機能障害に対し、リハビリテーションとともに高気圧酸素療法 (HBO) を併用し、臨床症状の改善をみた症例を経験したので報告する。

患者は74才男性、動脈硬化 (ASO) 性高血圧あり。両下肢の血流障害に対する手術治療直後に左後頭葉内に脳梗塞を発症し、脳神経外科病院で保存的治療を受けたが「高次脳機能障害」が残存したので当院に紹介され、HBOの併用治療を開始した。

HBOは、第Ⅱ種高気圧タンク内で、空気加圧 (2気圧) 下に100% O<sub>2</sub>, 10l/min. をリザーバーバッグ付き顔マスクで60分間吸入とし、約1カ月間に亘り19回実施した。その期間中、高次脳機能障害の回復過程

の臨床所見をリハビリ職員が詳細に観察・記録した。

それによると高次脳機能障害の病状は、添付の臨床症状の変化表のごとく、最初の認定規準「第2級1号」(随時介護・看護を要するものに相当) から、HBOの施行回数とともに徐々に減少し、最後 (19回目) のHBO後には物品や行動などの認知・理解が約60~70%、文字・短文の読み書きが50~60%可能、硬貨の識別が出来、何とか独りでも買物に外出できる状態になるなど、認定規準「第7級4号」(軽易な労働にしか服し得ない) に改善した。

このように高次脳機能障害の症状は、臨床的に比較的速い改善が見られ、結論として、リハビリによる体力の回復と自然治癒に加えて、HBOも高次脳機能障害の改善には有効であったと思われる。

参考文献

ヨネツボ行政書士法人: 後遺障害と等級認定, 目に見にくい後遺障害「高次脳機能障害」[http://www.yonetsubo.or.jp/authorize06\\_01.html](http://www.yonetsubo.or.jp/authorize06_01.html)

本症例における高次脳機能障害の臨床症状の変化表  
(リハビリテーション科職員による運動機能評価記録より)

観察項目	HBO 開始前(7/14)	HBO 6回(7/19)頃	HBO 12回(7/28)頃	HBO 19回(8/16)後
認識能力 注意障害	失認・失語、先行が多い ペンを逆に持つなど	身近なもののみ呼称可 失行・失認は少し改善	病院名など、身近なものは 理解・呼称・書字(約50%)	物品認識、呼称など 60~70%可能となる
文字の音読 書字、理解	失書、失読多く、文字の 理解困難、誤りが多い 数字の理解も約30%	失書、失読は少し減少 身近な単語は読める	簡単な名称、単語、 数字等の理解・音読 可能 約60%	漢字40%、仮名60% 音読可能、動作説明も 約70%可能となる
書取り能力	書字・模写など困難 50%以上は誤り	漢字 約20%可能 仮名 約80%可能	住所、氏名、日付など 漢字で書ける (約50%)	単語90%、短文80% 仮名・漢字70%可能
金銭・買物 などの感覚	誤り多く、不可能	金銭の呼称20%可能 買い物は困難	札・硬貨の識別可能 金銭・釣銭の計算60%可	札・硬貨の識別可能 金銭計算約80%可能
時計の読み	不可能	約20%可能	50%以上可能	約70%可能
方向感覚	なし (居場所不明)	不完全 (外出時迷う)	付添人の同行で外出可	一人で外出可能となる
意欲・活力 低下、易疲 労性など	強く、嗜眠性の訴え も多い	少し改善も、なお残存	残存	残存